

●WS10 保護者

コートから出た娘が重い足取りで、やって来る。小さい肩をガツカリ落とし、足には鉛がついているかのようだ。「やれやれ今日も始まるぞ。」私は思わず苦笑いをしてしまう。

娘はどんなに強い選手と対戦しても、負ければ号泣、地団駄を踏んで悔しがる。「良い試合だったよ!」と声を掛けたところでこうなるとお手上げ、焼け石に水である。

今日も案の定、テニスバッグや水筒を放り出し、嗚咽するほど大泣きをして暴れている。嵐が過ぎるのを待つしかないとはまさにこのこと、こんな小さい体のどこにそんなエネルギーが眠っているのだろうと感心してしまう。

とにかく彼女はテニスに夢中である。まだ8歳の彼女が、こんなに熱くなれるものにこんなに早く出会えたことは、本当にラッキーだと思う。

全国各地でたくさんのジュニアツアーが開催され、子供達が夢中でボールを追いかけ、熱い心を燃やしている。このような場所があることは本当に有り難いし、素晴らしいことだと思う。

そして彼らのプレーに私達大人も勇気をもらい、刺激を受け、日々の活力になっている。

娘には自分に関わる全ての方への感謝の気持ちを忘れず、この素晴らしい舞台に立てる喜びをかみしめて欲しい。

頑張れ、未来の金の卵達!

●MS18 保護者

子供の将来を決定づけたテニスの大会。

子供は、確か小学校6年生からジュニアツアーに参加をさせていただき数年前に初めてTOMAS CUP に出場できるようになり、開会式のセレモニーやウェルカムパーティに参加して、テニスができるこの世界が好きになった子供。

TOMAS CUP では、なかなか成績は残せないけど、テニスができる環境が嬉しかった様子。

そこから、たくさんのジュニアツアーに出場し、高校でもテニスをがんばり県大会の常連にもなれた。

それは、ジュニアツアーでたくさんの選手と対決し切磋琢磨できたから最後のTOMAS CUP になんとか地域大会で優勝でき参加できるようになった。

子供としては、もう一度あの場所に選手として立ちたいという思いが強い大会。

ジュニアの最後の大会としてがんばってもらいたい。

高校を卒業後、テニスの専門学校に入り、テニスコーチだけではなくみなさんのような運営やテニスに関わる仕事を将来やっていくようです。

また、違う目線でジュニアツアーやTOMAS CUP に関わっていく楽しみも教えてくれたSPORTS SUNRISE さんには、ありがとうございますとお伝えさせていただき、家族ともども最後のTOMAS CUP を楽しみます。

●MS18

小学生の頃からずっとTOMAS CUP に出るのが目標でした。

地元の大会だけでなく県外の大会にもチャレンジし、はじめはなかなか受賞できなかったけど、だんだん賞状がとれるようになっていきました。

地区大会の盾をもらうことを目標に、初めてBRIDGESTONE TECNIFIBRE TOUR に出られたときは感動でした。そして回を重ねるうちにBRIDGESTONE TECNIFIBRE TOURで準優勝。卒業するまでには優勝したいと目標をもってコロナ感染症で練習、試合もままならず、あっという間に18歳。大会がなければ出場資格ももらえず焦る日々。最後の最後でTOMAS CUP への切符をもらえた日の喜び。張り切り勇んだEDION CUP では悔しくも3位。TOMAS CUP で力を出せるよう励んできました。

この大会は卒業しますが、テニスの世界で育ち、テニスの世界が大好きなのでテニスの世界を歩んでいけるようテニスの専門学校へ進学します。

これからもみなさまにお会いしたり教えていただけることを願っています。

よろしくお祈りします。

●MS16 保護者

同じチームの子がTOMAS CUP のTシャツを着ているのを見て、「自分も出たい！」と、TOMAS CUP に出ることが、息子の今年の目標の一つになりました。

ただ、なかなか優勝することが出来ず、8月8日にやっとその日が来ました。

猛暑の中、顔を真っ赤にして、ヘロヘロになりながら最後まで勝ちきり、念願の優勝を手に入れる事が出来ました。

その日は、偶然にも私達夫婦の結婚20周年の日で、私達にも最高のプレゼントになりました。

●WS12 保護者

内気な性格の本人に何か自信をつけさせたく、3歳の時に始めた親子テニス。そのうち1人のレッスンが出来るようになったのだが、初めは緊張からか、コートにすら入れず、私たちの側から離れられないことが数回続いた。大会に出始めても、カウントの声は小さく、大事なゲーム数ですら間違える。コートの中でオドオド…キョドキョド…頭が真っ白になり、勝てない日々が続く。

何度、競技テニスは辞めて、お気楽に楽しむだけのテニスにしようかと問う。本人は自分の考えを言葉にすることが得意ではなかったが、テニスは続けたいとだけ言う。

コツコツタイプの本人は、地道に練習・試合の日々。いつの間にか、少しずつ勝てるようになり、自分の考えた戦術なども言葉に出来るように。また、私生活でも変化が！

限られた時間の中で時間を見つけて宿題を率先してこなしたり、相手への思いやりの気持ちも芽生え料理も手伝ったり、意見を聞かれても少しずつ答えられるように！

今、まさに、人としてもテニスプレーヤーとしても立派な立ち振る舞い出来るように変化を遂げている最中なのだ！と気づかされた。

コートの中では1人。自分1人で考え、判断し、自分の考えを言葉にし、行動を起こさなければならない。これを小学生のうちから経験できる事は、本当に素晴らしい事。負荷をかけ過ぎていないかと心配になる事もあったが、本人の中に1つ軸となるものができ、続けさせていて良かったなと思う。

テニスは、生涯スポーツ。おじいちゃん・おばあちゃんになっても、テニスを楽しんでいてほしい。そして、たまにパパママと試合をするときは、お手柔らかにお願いしますね(笑)

●WS10

テニスを始めた時は、とても難しかったです。ボールをうまく打てた時の感覚が気持ちよく、楽しくて、上手になる為に一生懸命練習しました。試合にも出れるようになった時、とても緊張して、いつもの自分のプレーができず、悔しい思いをしました。また、私以上に練習やトレーニングをしている選手が沢山いることも知り、もっともっと頑張ろうと努力しました。

毎回試合の反省点をノートに書き、直すところを意識して練習しました。日々の努力が自信となって、少しずつ練習通りのプレーが試合でもできるようになってきました。大会などで結果も残せるようになると、試合の緊張感も嫌いではなくなり、むしろ、楽しみと思えるようになりました。

しかし、一昨年の春、ショックな出来事がありました。大切な大会の直前に、不注意で左手の指を骨折してしまいました。練習が思うようにできず、大会に出られるか、不安と悔しさで一杯でした。その時にお父さんに言われました。「試練に負けない強い心を持ってた時に、このケガも必ず自分にとってプラスになるよ！」と。それから、毎日負けそうになる気持ちと戦いながら、今できる練習を続けました。そして、試合には何とか出られたものの、左手はほとんど使えず、結果は完敗でした。しかし、この左手が使えなかった期間に、バックハンドスライスを打てるようになりました。きっとこのケガがなければ、自分の技として挑戦する事はなかったと思います。

骨折が治り、思い切りテニスができるようになった時、とても幸せでした。テニスをしている時が、やっぱり私は一番好きで、どんなに辛い練習も、強くなりたい、試合で勝ちたいと思うと、一日も欠かさず頑張ることができました。辛く悔しかった骨折の経験は、テニスができる事に感謝の気持ちをもつ事ができ、お父さんが言ったように、負けない心を教えてくれました。将来世界で活躍できる選手になる為にもっともっと強い自分に成長します！

●WS12

私は7歳からテニスを始め、4年が経った。11歳までに二つの小さな大会で優勝している。

今は14歳の部に挑戦しているが、シード選手に勝てない状況が続いている。

最近知ったことがある。それは、テニスのプロに限らず、プロのアスリートはいろんな意味で頭がいいことだ。文武両道である。

何故、プロのアスリートは勉強もスポーツも一流なのか？

それは、スポーツで養われた相手に勝つための「考える力」が活かされているからではないだろうか。相手に勝つ「強いテニス」は返ってきた球をただ打ち返すだけではない。天性のボール感覚？絶対に折れることのない強固なメンタル？恵まれた体格？

私はとても考えることが苦手だが、プロのプレーを見る限り「強さ」とは決して諦めずに考え続けられること、相手の得意不得意を見極めプレーすること。それを強さと言うのだと思う。

●WS16 保護者

2018年のトーマスカップ。

確か10歳で4年生。

あの日は天気に恵まれず準決勝でなかなか試合をやることができずにいました。

その夜テニスと同時にやっていたミニバスの送別会を開いてもらうことになっていたため、帰ろうか試合に出るか、かなり迷っていましたが結局試合をとり送別会に出なかったのだからと頑張り決勝に進むことができました。

そして迎えた決勝！クラブハウスで写真を撮ってもらったりインタビューを受けたり、そして音楽がなる中を紹介され拍手のなかコートに向かいます！そんな雰囲気はきっとTOMAS CUP だからこそ！でしょう。

緊張の中始まった決勝戦！

思うようにプレーが出来ず半ベソでした！

ですが、TOMAS CUP はベンチコートに入ることが許されているため姉が入りました！

半ベソでベンチに戻ると姉は、そんなことでいいの？負けていいの？と厳しいことを言ったそうです！

いつも優しい姉に言われ我にかえり、それから逆転勝ちすることができました！

あの日のことは今だに家族の話題にあがることがあります！

今は中学3年生！

これからも、きっとテニスを続けて行くでしょう！

あの時と変わらず家族で応援していきたいと思います！

●WS18 保護者

3年間ありがとうございました。

中学生からテニスを始め、知り合いに誘われジュニアツアーを始めたのは、高校生から。初めはお友だちと出ていましたが、コロナもありスケジュールが合わず一人になると、泣きながら嫌だと言っていました。それからコロナで外出できずらくなり、また出場し始めたのは高校2年の冬でした。その頃には、試合の自信が付き、知り合いもでき、試合に出るといふようになりました。知らない子と試合する練習ができました。心も強くなりました。

高校最後の引退試合もトーナメント運が悪く本戦はあきらめていましたが、粘り強く勝ち抜き本戦出場しました。ジュニアツアーのおかげです。

熱い中、寒い中、いつもありがとうございました。これは、ジュニアツアーでの最後の写真です。立派になりました。コロナ禍でも、開催していただきありがとうございました。

●MS14 保護者

TOMAS CUP に連続出場の息子。小さい頃にラケットとボールを持たせたら泣いていても、すぐにご機嫌で笑顔になりました。

●MS12 保護者

TOMAS CUP に連続出場の息子。小さい頃家族でレンタルコートを借りてテニスしたことが、今でも楽しい良い思い出です。